I Love Earth, I Love Peace

NPO Asian Green Forest Network

特定非営利活動法人アジア植林友好協会

2017 年
インドネシア
ボランティア植林体験ツアー報告書

NO Forest No Future

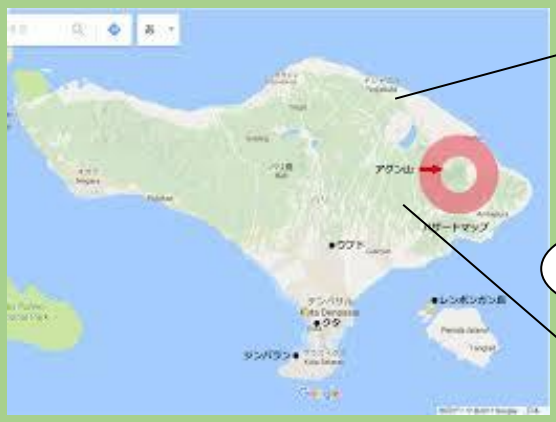
http://www.agfn/org　　info@agfn.org

2017 年インドネシアボランティア植林体験ツアー報告

今年も植林するのに一番いい１２月の雨期を選んで下記の日程で実行することができました。
足元が溶岩礫で歩行も厳しい状況の植林の環境にもかかわらず参加していただいた皆様、溶岩の角でちょっとした擦り傷はありましたが、大きなケガなく終了することができて感謝です。

天候面もこの 2 年間は雨に降られて、濡れながら取り組んで頂きましたが、今年は雨も慰霊碑の植樹の終わりごろに短い時間、降られただけで終わることができて感謝です。

日本の TV のニュースでも伝えられていましたが、バリ島のアグン山の火山噴火の噴煙の影響で空港が閉鎖されるなどの影響があり、実行が懸念されましたが、現地は約 30 ㎞離れているため、この影響もなく実施できたことに感謝です。



植林活動の軌跡地図

■日程

第 9 回バリ植林祭ツアー(15 名参加)：2017 年 12 月 8 日～12 日帰国
引き続きバリ島＆カリマンタン島参加の皆さんは、
第 20 回カリマンタン島植林体験ツアー（10 名参加）は 12 月 8 日~14 日に参加して帰国

■実行した植林について

①枯れた植林木の植え替え植林

12 月 9 日朝 8 時より、地元のキンタマニ高校生 35 名、デンパサールの大学生 12 名、日本からの参加者 15 名、地元の協力者 10 名の合計 72 名で 2015 年、2016 年に溶岩礫の堆積した土地に植林し、枯れてしまった木々を再植林しました。
※枯れた原因は、植林事態は手順に従って実施して頂いていますが、中には完全に植林用苗の鉢を完全に埋め込んでいないものもみられたこと、もう一点は植林後の天候によるものと考えられます。
土のない溶岩礫の堆積層の植林は難しい！

12 月 9 日参加者 72 名で 1000 本植林

溶岩礫堆積地の植え替え作業中の高校生たち

植替え用 BIOPOT 苗を前に作業の段取り打ち合わせ

②植林祭 2017 年：水源涵養林の再生を願って植林

12 月 10 日　林業省関係 45 名、バリの森を守る会 10 名、カルナバリ 30 名、デンパサールの大学生 12 名、日本からの参加者 15 名、地元のグループ約 300 名合計約 450 名の参加により新規植林を 5000 本(地場の樹種アンププ)を植林しました。
在デンパサール日本国総領事館の千葉総領事も休日のもかかわらず早朝より最後まで参加いただき感謝です。

笑顔で植林に向かう高校生

ツアー参加メンバー鹿養夫妻記念植樹

現場の状況から参加者全員が集合して写真撮影ができない。
日本からのメンバーと STIBA の学生

荒涼たる植林現場

不燃ごみの収集を行う参加者

バリ島から
カリマンタン島バリックパパンに移動しました。飛行時間は直行便で約 1 時間 30 分です。

今年の T シャツのイラストは菅原みなみさんの自然への想いが込められている。記念植樹

③カリマンタン「オランウータンの森づくり」の自然再生植林

サンボジャエリアの 2015 年山火事後の再生してきているブッシュの中に樹下植林 100 本（樹種、地場の樹種メランティー、カポール、ウリン、マンゴー、ランブータン、ガハル）を植林した。2016 年 1 月以来 4 回目の植林をおこなった。別途植林寄付金として 34,200 円を実施。

檻から出て疑似自然訓練中のロミオ君

訓練施設オランウータンアイランドを見学

④2015 年山火事被災地への樹下植林～熱帯雨林の再生

最年長の中野社長

カポールの成木

最年少の参加者オランウータン大好き加治さんも活躍

このエリアは、焼畑が繰り返されてその後二次林になり灌木が生い茂っていた。2015 年に森林火災のために消失し、再び草本類の繁茂する環境になった。しかし、将来大きくなる樹種が無いので、二次林の樹下に

将来主木になれる樹種を植林しました。

植林後参加者等と集合写真:　とにかく蒸し暑い

レッドメランティの成木 100 年後？

⑤Km30 の植林地：荒廃した熱帯雨林の再生植林～まず一時植生チーク林を造成～

本来自然林が維持されていれば左のように生命あふれる熱帯雨林だったものが、1970 年代からの伐採や焼畑農民の侵入、焼畑の繰り返しにより土地が痩せてきて、作物の収穫量が減ってきて、農民が放棄、そして大規模森林火災に遭い、右の写真のような状態になっていました。

一人 2 ヘクタールの土地所有の農民から買い上げて 240ha を確保して植林をしています。
アランアランの草原を開墾して、乾燥に強く一次植生のチークを植林している。

2017 年 7 月のチーク植林現場の遠景　　手前はアランアランの繁茂を防ぐためのパイナップル

今回は Km30 の植林地の境界付近のまだ植林されていない遊休地のアランアランを刈り払いして、モリンガ（100 本）ポンガミア（400 本）、チーク（200 本）の合計 700 本を 10 名のツアー参加のみなさんと地元民のみなさん 6 名で植林を実施しました。　　**※笑顔でチークを植える小林さん⇒**

2017 年 7 月に植林したモリンガは 2~3m に育ち開花

植林作業後のひととき、パイナップルを食す

※遊休地を切り開いて、モリンガを植えています。1 年以内に大きくなり花をつけて実を付けます。
ここでは、種子を収穫するためにこのままで実を付けるのを待ちます。
実が熟した時に種子をとる予定です。

チークを植林（山本様）

バイオエネルギーの原料にされるポンガミアも植林

チークと混植 3 年目のポンガミア

ポンガミア（油）(Pongamia Pinnata、最近 **Millettia Pinnata** が統一名)で,オーストラリア、インド原産の樹木です。
インドでは、Ｋａｒａｎｊ/Ｉｎｄｉａｎ　Ｂｅｅｃｈと呼ばれています。
http://en.wikipedia.org/wiki/Millettia_pinnata
日本でも、沖縄等では、海岸線等に自生していて**クロヨナ**と呼ばれています。街路樹等にも利用されているようです。
第 2 世代の BDF 原料油種として、最近特に注目されています😱！
マメ科の木で、乾燥地、温帯、亜熱帯で育つのは、ジャトローファと同じですが、毒性が無いために(正しくは、毒性が強くない為)、絞りカスは高タンパク質で、家畜の飼料（鶏飼料など）として使える様ですし、採種の機械化も出来る様です。
加えて、**マメ科植物ですので、空中窒素の固定化**を行う為、肥料分（窒素分）も少なめで栽培できそうです。更に、豆のサヤは、発電用の燃料（直接ボイラー)、ガス化・液化などの利用の可能性も有ります。

■ブキットバンキライ保護林へ～残された熱帯雨林の息吹を体感する

最終日の午前中、林業公社の管理する「ブキットバンキライ保護林」を訪問し、バンキライという樹種の地上 30m にかかっている吊り橋に上り、残された貴重な熱帯雨林を俯瞰し、熱帯雨林を体感していただきました。

キャノピーブリッジの入り口にて

キャノピーブリッジを体験

2009 年より始めたステテコの森の今 8 年目

コンステックの森 2013 年開始、2016 年の状況

この保護林の再生のために 2001 年以来約 30000 本の樹下植林を行ってきました。トレッキング道路の両サイドは私たちが植林を行い、森が徐々に再生しています。これまで残された面積が少なくなっている熱帯雨林の再生のための植林=樹下植林に貢献しています。

■南方方面戦没者慰霊碑に次世代に引き継ぐ「平和の森づくり」New!!

1999 年にバリックパパン市に寄付をして、市役所の人たちとの会合があった時のコーヒーブレークで市役所の中年女性職員の方に声をかけられました。

「マンガーという海岸のところに第二次世界大戦の日本人戦没者の慰霊碑があるのを知っているか？」というお話でしたが、自分のインドネシア語の知識にない「慰霊碑」という意味が理解できなくて何度も聞きなおして状況がそれとなく理解することができました。

「マンガーという海岸のところに日本人の戦没者の慰霊碑があるが、その周りが荒れ果てて、周りから農民が侵入している。あなた日本人なら整備して守らないと。ちゃんと整備して公園のようにしたらいいのに」というお話でした。

バリックパパン市は、石油基地があり、第二次世界大戦のときに激戦があったことやバリックパパンからサマリンダ市に向かう道路は地獄街道と呼ばれていたことは、おぼろげながら知っていましたが、戦没者の慰霊碑があることは、この時初めて知りました。（ｋｍ３０は地獄街道の 30 ㎞地点です）
帰国して、厚生省に問い合わせてもその存在自体が記録されておらず、何もわかりませんでした。
いろいろと調べて、昔を知る人たちの情報から、日本インドネシア文化交流会の「矢倉弾正」さんという方が自費で建立されたものであることが分かりました。
現地の情報をたよりに慰霊碑の現場はわかったので、植林体験ツアーのときにお参りすることやその前の海岸の清掃や慰霊碑の周りの清掃や花木を皆さんと植樹したりしてきました。
マングローブの木が枯れて、海岸の浸食が進んで、慰霊碑に近づいていることも知り、マングローブの植林も過去二度しましたが、波に洗われてしまって失敗に終わりました。
そのままになっていて持続的にできてないことは悔やんでいましたが、今回、ツアーのみなさんと植林をして、平和の森づくりを目指すことになりました。
繰り返しになりますが、
バリックパパンの郊外にある南方方面戦没者慰霊の周辺環境整備のための植林を今回のツアー参加の皆さんで 100 本実施していただきました。樹種は、塩分にも強いといわれ、この土地にあうと思われるマメ科のポンガミアを 100 本テスト的に行いました。
今後の成長状況が良ければ、この慰霊碑の周りの環境をととのえるためにポンガミアの植林を続け、あわせて植林できる樹種を調査して混交林に育ててゆきたいと願っています。

様々な現場に応じた植林を限られた時間の中で実施体験していただき、合計で 7000 本の植林を実行できました。ご参加に心より感謝申し上げます。また、我々の植林実施前に下準備をしてくださった地元の皆様にも感謝申し上げます。

砂だけの土地で育ってくれるか？心配ですが。。。

塩分に強いマメ科のポンガミアを植樹　　100 年生のポンガミア、慰霊碑の森になればいいなと願っています。今回の苗は海岸地域に自生する親魏からの種子を採取して育苗した苗を使用しました。途中で降り始めた雨の中皆さん熱心に植樹をしていただきました。感謝

子供たちの未来に緑ゆたかな地球を残そう！

気候変動と飢餓貧困の対策：あなたにできること？

★まず現実を正しく知ること：地球はもう浸水をし始めていること！

あなたが乗っているボートに穴があいてしまったり、荷物が重すぎて水が入って浸水していたら、あなたはどのような行動をとりますか？

「普通なら、穴をふさいだり、水を汲みだしたりしますよね？」

「グローバルフットプリント」という学問では、すでに地球の収容能力は 40%余りもオーバーしているそうです。

地球はすでに浸水をしていて、あるいは穴があいている状態ともいえます。

こんな地球が広がると？

★「地球生命の源」＝「熱帯雨林」をこれ以上減らさないために！

私たちは事業活動の傍らで1996年以来、熱帯雨林の森を守っている森の管理人「オランウータン」の保護支援（NPOボルネオ　オランウータン　サバイバル　ファンデーション日本）や森林伐採やその後の焼畑、山火事などで荒廃したインドネシアの熱帯雨林の植林による再生協力（NPOアジア植林友好協会）の支援活動を行っています。日頃よりたくさんの個人の皆様や企業の方々にご協力を頂き、活動をつづけています。私たち人間は呼吸を止められない、「継続は力」を実感しています。持続可能な世界を目指して活動をしています。これからも参加、支援をしていただいている皆様とともに安心安全な世界を次世代に引き継ぐために。

★浸水している穴を防ぐ植林は今を生きる私たちの役目です

私たちが活動しているインドネシアの熱帯雨林の現場では、もう天然の熱帯雨林は無残な姿で残されています。

★次世代の地球の姿が見えない

このままでは、早晩、人類は危機的な状況に陥ってしまうのは明らかです。

人類に残された時間を考えますと早くたくさんの植林推進が必要です。

地球に住んでいるみんなで地球規模の植林・森林保護を積極的に推進することが不可欠です。

有って当たり前と思いがちですが、森林のシステムは、人類の生活のなかのすべての健康、富、食料、燃料、重要な生態系サービスを提供してくれています。森林は生物多様性の基礎で重要な役割を果たしています。多様性豊かな森林は飲料水、肥沃な土壌と安定した気候を通気性の空気を提供します。

低炭素社会を目指してやるべきこと

地球温暖化は確実に進行しており、異常高温の発生、強い熱帯低気圧や大雨の発生頻度の増加、海面上昇等様々な影響が出てきています。

私たちは、多様な生物に支えられた生態系から、生態系サービスという形で様々な恩恵を受けていますが、地球温暖化は、それらにも重大な影響を及ぼしつつあります。

21世紀の末には、地球温暖化による世界の平均気温の上昇は最大で6.4℃にもなると予測されており、私たちの地球は現在、危機的な状況にあります。

危機を回避するために、私たちは地球温暖化対策を加速する必要があります。

ここでは、まずは知ることが重要であると考え、国民一人一人に地球温暖化問題の姿をよりよく知ってもらい、身近な技術による温室効果ガス排出削減の可能性に目を向けてもらうことに焦点を当てて述べてきました。

もとより、地球温暖化対策は技術のみならず制度と行動の変革を一体として進めるものであり、技術を社会の隅々まで行き渡らせる社会的仕組みづくり等の制度面での改革や、国民一人一人の意識、ライフスタイル等の転換等の行動面での改革が欠かせません。

こうした取組を通じて社会経済システムの変革を起こし、私たちが生活する地域にその姿を具現化するなどして、私たちとその子孫、さらにその生きる基盤である地球を守るため、「低炭素社会」を作り上げていくことが必要です。

地球温暖化と気候変動そして飢餓貧困問題を解消するために「奇跡の木」＝モリンガを世界中で100億本植える

★一般植物の 20 倍の成長する「奇跡の木＝モリンガ」

奇跡の木＝モリンガオレイフェラとは

モリンガオレイフェラは、北インドを原産とする樹木で、
「生命の木」「奇跡の木」「薬箱の木」と呼ばれ、
世界最古の伝承医学アーユルベーダの治療にも使われていました。
※アーユルヴェーダとはインド大陸の伝統的医学で、その名は生気、生命を意味しており現代西洋でいう医学のみならず、生活の知恵、生命科学、哲学の概念も含んでいます。
約五千年の歴史があり、チベット医学や古代ギリシア、ペルシアの医学等にも影響を与えたといわれ西洋医学で説明のつかない病気はアーユルヴェーダで全て解決されると言われています。

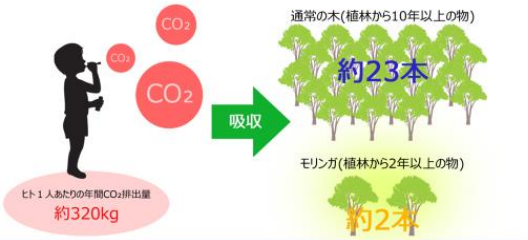
モリンガは、干ばつに強く痩せた土壌でも育ち、更に土壌を肥沃に回復する働きをも持つという驚くべき力を持ち、その葉・実・種は、私達人類に有益とされる９０種類以上の栄養素を含んでいます。

現在、発展途上国では栄養不良による疾患の対策として使われ、ユニセフをはじめとした世界２００以上の団体がモリンガの普及に取り組んでいます。

過剰なCO2を150億t／年吸収させるには

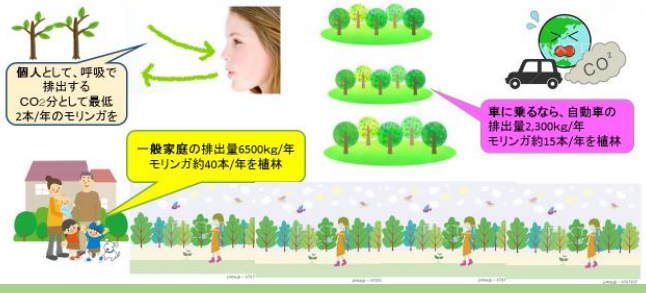
❖モリンガ（160ｋｇ/本吸収）の普及でＣＯ2を削減する、
地球上の空いている土地に約１００億本のモリンガを普及
①一人が自分の呼吸分として２本植えると＝５０億人の参加が必要
②一人が１０本植える場合＝１０億人の参加が必要
③一人5本のモリンガがあれば1年継続して野菜を補給することができる
④自家用車を使っている人は15本のモリンガでＣＯ2を相殺できる
⑤日本の平均的な一家族のＣＯ2をゼロにするにはモリンガが40本必要
モリンガの葉、実、花などの生産物を使って、自分の健康と地球の健康を！

凄いモリンガの成長力＝CO2吸収力



一般植物の20倍、日本の杉の木の50倍のスピードで成長する

平和を望む地球市民としてモリンガの植林に参加する



❖一般植林では及ばないがモリンガなら温暖化緩和に 20 倍の効果が期待できる。

❖モリンガ 10 個のミラクルポイント

ここがミラクルその①
モリンガの生育分布と貧困分布

ここがミラクルその②
気候緩和・成長スピードが杉の50倍、一般植物の20倍

モリンガは、インド原産の有用樹木で成長が早く、1年間で1メートル以上成長し、2年で成木3年目からは種子が採れます。CO_2の吸収量は成木で杉の木の20～30倍と言われ地球温暖化防止には大変期待されています。

モリンガの優れた栄養価～健康管理に～ミラクル③

出典：*インドの食品の栄養価*、ラC.ゴパランにより作成

鉄分＝生葉3／4倍、乾燥葉＝25倍含有

ここがミラクルその④
飢餓貧困＆健康対策にも

母乳に近い栄養価と栄養バランス

ここがミラクルその⑤
乾燥地や荒廃地でもモリンガは育つ

モリンガは熱帯・亜熱帯地域であれば、どのような悪辣な環境でも育ちます。
その理由として、バクテリアを跳ね返す強い成分が根から出ており、栄養を多く吸収しファイトケミカルを沢山含みながら成長していきます。種をまけば1年足らずで3m余りの木に成長し、その木は15年は持つといわれています。発展途上国でモリンガが発展モデルの植物なのは**この自生の力強さが大きな理由**です。

ここがミラクルその⑥
4500年間伝承され続けたアーユルヴェーダに記述

アーユルベーダも認めた栄養効果

モリンガの栄養素はマルチビタミン、ミネラル、アミノ酸、必須アミノ酸、ビタミンB群、GABA、ポリフェノールなどたくさんの栄養素を含んでいる。
あの有名なインドの医学書アーユルヴェーダに「モリンガは特別な植物で、その使い道は実に多くある」と記されている。インドなどでは昔からモリンガを民間療法として重宝してきた。

ここがミラクルその⑦
汚れた水を浄化できる90～99%除菌

Dirty Water + Moringa Seeds Powder = Clean Water

人間が生きてゆくうえで不可欠な食糧、避難所、衣服に加えて、「水」は私たちの基本的な人間のニーズの1つであり、飲料水の不足は私たちの世界の死と病気の主要な原因です。

独自の凝固剤の代替凝固剤としてMoringa oleiferaを使用することは、使用が簡単で、堅牢で安価な開発途上国の水および廃水技術の必要性を満たしています。

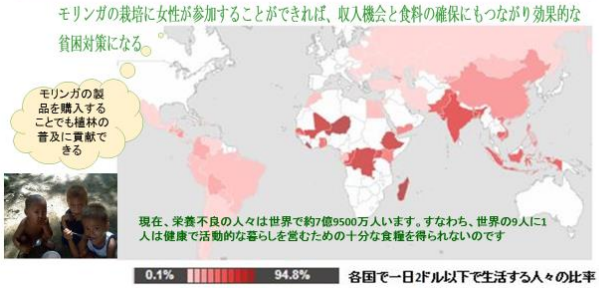
ここがミラクルその⑧
モリンガは地球上全ての生き物を救う…!?

モリンガは地球人類の食糧危機を回避するための大きなカギを握っています。
私たち人間以外も含め、すべての生物が快適に暮らすための環境を整えてくれているミラクルな植物です。

- ❖動物飼料としてのモリンガのメリット
- ❖天然植物成長促進剤としてのモリンガ葉のジュース

飢餓貧困対策にもなるモリンガ植林～ミラクル⑨

モリンガの栽培に女性が参加することができれば、収入機会と食料の確保にもつながり効果的な貧困対策になる



ミラクル⑩気候変動時代を生き抜き希望ある未来を創る

気候変動を引き起こす中核の問題は消え去ることはできないが、より良い未来世界を創造するためには
「危機感」と「平和への希望」に基づく行動戦略の両方が必要で、モリンガの普及には備わっている。

モリンガ100億本普及プロジェクト

自分の呼吸で出すCO_2をゼロにする2本植林に参加する＝1000円

今を生きる大人として、植林をしよう！

中国の諺
木を植える最も良い時期は20年前だった。次に良い時期は今である。

50年後、
私たちの子供、孫世代は
何と言うでしょうか?
「馬鹿な先人たちが
自分らだけ恩恵を享受して
俺たちには何も残してくれなかった」

そう言われないように
今すぐ行動を始めましょう・・・

★今を生き未来につなぐ活動

過去は私たちのものだが、
私たちは過去のものではない
わたしたちは現在を生き、未来をつくる。
たとえその未来に私たちがいなくても、
そこには子供たちがいるから
（マホトマガンジー魂の言葉より）

未来に伝え残したい価値観

水・空気当たり前の自然の恵みの為
に木を植えよう！

ご自宅直送
送料込･税別です。お問合せ 0120-80—8087

砂漠の下に眠る水

500m l 24 本入り、4320 円購入で、インドネシアで、モリンガ 1 本の植林を行います。

マサフィーの源泉はＵＡＥ（アラブ首長国連邦）ドバイとオマーンの国沿いのマサフィー山脈地下にある潤沢な地下水脈です。数千年のときをかけマサフィー山脈に降った雨が砂漠の砂の天然フィルターを通して、濾過されたまろやかなミネラルウォーターです。

マサフィーは、アラビア語で命の水、「オアシスの水」を意味しています。環境汚染とは無縁の砂漠で育まれたマサフィーは、HACCPの採用、NSFやISO9002の認証取得など高品質運営と環境保全を図り、安全性を確立し、20カ国で愛飲されています。

身体吸収抜群：砂漠の地下水「masafi」を飲んで、生命育む

「マサフィー」飲んで「奇跡の木」モリンガを植えよう！

お申込み、お問合せはお気軽に　04-2968-6343　info@agfn.org
モリンガ 100 億本普及キャンペーン共同企画　アクアビバレッジ㈱＆ＮＰＯアジア植林友好協会

■NPO アジア植林友好協会のご紹介ページ

NPOアジア植林友好協会の活動紹介

2017 年10月現在

NPO Asian Green Forest Network

特定非営利活動法人アジア植林友好協会

http://www.agfn.org

No Forest No Future

団体概要

地球のいのち、つないでいこう

生物多様性

名 称　　特定非営利活動法人アジア植林友好協会　*HP http://www.agfn.org*

NPO Asian Green Forest Network

法人認証番号　14生都協市特第892号

登記住所　〒188-0011 東京都西東京市田無町3-5-4

事業所　〒359-0045 埼玉県所沢市美原町5-2019-2ベルウッドプラザ201

e-mail info@agfn. org Tel04-2968-6343　Fax 04-2968-6470

設立年月日　平成14年9月10日

事業内容　アジアの熱帯雨林地域での植林による森の再生に寄与すること、また、植林活動を通じてアジア地域の人々の民生向上(自立支援)に協力していくことを目的とする。

(1)環境の保全を図る活動
(2)国際協力の活動
(3)熱帯雨林再生のための植林の必要性の普及活動
(4)インドネシアとその他のアジア地域での植林に関する事業
(5)植林に関するセミナー、講演会等の開催
(6)オランウータンのリハビリセンターへの寄付
(7)村落基盤整備事業
(8)農民の収入向上事業
(9)個人または団体からの寄付金の募集および管理
(10)関係諸団体との連携
(11)その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

理念

ロゴマークに込めた想い
緑が増えて鳥が飛び交う緑豊かな地球の再生を願って！

私たち、アジア植林友好協会は、日本人が一番利用した**アジア地域の熱帯雨林の再生を植林活動を通じて貢献**することを目的として、平成14年9月10日にNPO法人を設立いたしました。

現在も地球上の森林が「違法伐採」や「焼畑による山火事」「パームオイルプランテーションの開発」などにより現在も継続し広大な森林が失われています。

1997～98年にかけてカリマンタン島で起こった大火災だけでも570万haという広大な熱帯雨林が焼失してしまいました。

2015年6月からのエルニーニョ現象により焼畑の火が類焼し続けて、200万ヘクタール余りが焼失し16億トン以上のCO2が放出されています。

南米アマゾンとともに「地球の肺」と呼ばれるインドネシア・カリマンタン島の被害は重大で、国際環境保護団体WWFでもインドネシアの森林は世界で一番貴重で、危機的な森林とされ、森林破壊のスピードは世界一です。

地球の酸素の約50%を供給し、地球上の生物種の約50%が生息するなど熱帯雨林は特別な森です。

熱帯雨林の保護と再生は、私たち人類にとって、地球の温暖化や気候異変などの地球規模の環境問題へとつながっていく地球規模の大きな課題です。

みんなが参加でき、行動できる修復「植林」を通して、地球規模の人類の課題を改善し次世代に引き継ぎたいとの想いと
～森のない地球に人類の未来は無い～との想いで植林による森林再生活動を行っております。

未来を担う子どもたちへ美しい地球を残すために、皆さまと協力して、熱帯雨林を保護・再生できることを願っております。

子供たちの世代に美しい地球を残すために
特定非営利活動法人アジア植林友好協会
代表理事 宮崎林司

活動の沿革①

インドネシア・東カリマンタン州およびバリクパパン市に森林火災跡地への苗木の寄付をはじめたのが当会設立の動機です。個人レベルでの寄付活動に限界があると感じ、より幅広い市民の皆様の参加を募るため2002年にNPO法人アジア植林友好協会が設立。法人格取得以前の活動を含めた沿革は下記のとおりとなります。

◆NPO法人取得以前の活動

1999年 6月 現地YEBBH財団を通じて東カリマンタン州およびバリクパパン市にメランティとチークの苗木を合計10,000本寄付を実施(第1回寄付植林)第一回東カリマンタン州ツアー実施
2000年 6月 第2回東カリマンタン州植林体験ツアー実施
クタイ カルタネガラ県に苗木20,000本寄付 バンタイ アスハン財団(青少年職業訓練支援)に苗木1,000本寄付
2000年 8月 第3回東カリマンタン州植林体験ツアー実施
第2回寄付植林を実施(5,000本)2000年12月 第3回寄付植林を実施(5,000本)
2001年 6月 第4回東カリマンタン州植林体験ツアー実施
第4回寄付植林を実施(10,000本)
2001年 6月 第5回 東カリマンタン州植林体験ツアーを開始
2002年 3月 第6回東カリマンタン州植林体験ツアー実施
バリクパパン市内避児院の土地に将来の財源用としてのチークを寄付(1ha＝1000本)
クタイ カルタネガラ県にメランティの苗木20,000本寄付
2002年 9月 NPO法人格を取得 特定非営利活動法人アジア植林友好協会が正式に発足
2003年10月 第7回東カリマンタン州植林体験ツアー実施
スンガイワイン水源涵養林周辺のコミュニティ林として20000㎡(ツアー参加の皆さんと寄附植林1,666本)
2003年12月 **「生命の森づくり」プロジェクトをスタート オランウータンの森づくりに10,000本のメランティを寄付**
2004年 5月 岩手県湯田町にて「共生の森づくり」ツアーを実施
6月 第8回東カリマンタン州植林体験ツアー実施
8月 東カリマンタン州 第一回リンカランの森づくりツアー実施
2005年 1月 地球緑化推進フォーラム 開催

活動の沿革②

2005年 3月第10回東カリマンタン州植林体験ツアー実施 第二回リンカランの森づくりツアー実施※戦没者慰霊碑へ植樹と清掃を実施
5月 **ボール・ウィンター チャリティコンサート「地球の鼓動を聴く夕べ」開催**
2005年 9月 第11回東カリマンタン州植林体験ツアー実施 戦没者慰霊碑前の海岸にマングローブの植林を実施
2005年11月 国際ソロプチミストより環境貢献賞を受賞
2006年 3月 第12回東カリマンタン州植林体験ツアーを群馬県労働福祉協議会との共同実施
2006年 4月 雑誌「Men's EX」とのチャリティオークション開催
2006年 8月 東京ヴェルディ1969とのチャリティエコオークション開催
2007年 2月 NECフィールディングと「フィールディングの森」づくりスタート
2007年11月 第13回東カリマンタン州植林ツアー実施
2008年 7月 みずほ銀行のデビッドカード使用件数に合わせて植林寄付プロジェクトがスタート
11月 第14回東カリマンタン州植林体験ツアー実施
2009年 3月 バリ島植林1万本を達成したのを機会に、州政府、県政府関係者を招いて記念式典を開催。
2009年11月 第1回バリ植林祭を開催(合計12,000本植林)
2010年12月 第2回バリ植林祭を開催(財)国土緑化推進機構の助成あり)720名が参加.
2011年 2月 第15回東カリマンタン州ショクリンタイケンツアー、第5回NECフィールディングの森づくり植林体験ツアー実施
2011年7月 国土緑化推進機構の「緑の基金公募事業」にバリの植林が承認されました。
2011年 8月 第16回東カリマンタンオランウータンのリハビリセンター訪問と植林体験ツアー実施
2011年 9月 国際ワークキャンプを主催するNICEと第一回バリ島植林ワークキャンプを実施
2011年12月 **第3回バリ植林祭**とバリ植林体験ツアーを実施:植林祭の今年の参加者が1000名を超:在日インドネシア大使館も支援
2012年 1月 **国連環境計画(UNEP)より10億本植樹キャンペーンへの参加感謝状**
2012年12月 **第4回バリ植林祭**と植林体験ツアーを実施 植林祭の参加者が1000名を超えました。
2013年12月 第5回バリ植林祭&体験ツアー実施
2014年12月 **国際協力60周年事業**第6回バリ植林祭実施& 第17回東カリマンタン州植林体験ツアー実施
2015年12月 **経団連自然保護基金の助成**でラオスで新炭林の植林 第7回バリ植林祭を実施第18回カリマンタンツアー実施
2016年8月 モロタイ島**国土緑化推進機構助成金**での 植林開始
2016年12月 第19回インドネシア植林ボランティアツアー(バリ島第8回& 第19回カリマンタン)を実施

活動対象地域

これ以上の熱帯雨林の破壊を防ぐため「残された森の保全」と「荒廃した草原の再生」のための植林を始めました。主な活動地域は、インドネシアの 東カリマンタン州バリクパパン市郊外およびバリ島と新たにモロタイ島の3箇所です。

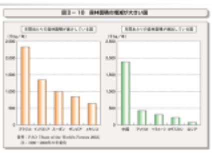
世界で一番貴重で危機的な森林(WWF)インドネシアの熱帯雨林は、地球全体の気候変動に大きな影響を与えます。豊かな熱帯雨林が伐採利用されたり、土地がプランテーションに転用されて消失してしまいました。人類が生存し続けるために必要不可欠な熱帯雨林の再生を目指しています～緑豊かな地球環境を未来に～

バリ住民の命の水ガメ・水源涵養林の造成プロジェクト現場

森林火災

草原化した土地・何もしなければ森に戻らない！

世界で最も危機的な状態のインドネシアの森林



【最も貴重かつ危機にさらされた森林を有する国トップ40】

1 インドネシア	16 アンゴラ	31 メキシコ
2 ナイジェリア	17 エクアドル	32 グアテマラ
3 コンゴ共和国	18 タンザニア	33 タイ
4 リベリア	19 ガーナ	34 ウクライナ
5 カメルーン	20 ルワンダ	35 ロシア
6 マダガスカル	21 マラウイ	36 ガイアナ
7 ソマリア	22 ケニア	37 コンゴ民主共和国
8 赤道ギニア	23 フィリピン	38 ホンジュラス
9 ミャンマー	24 パプアニューギニア	39 ベナン
10 シエラレオネ	25 カンボジア	40 中央アフリカ
11 ウガンダ	26 ザンビア	
12 コートジボワール	27 ネパール	
13 ハイチ	28 ベトナム	
14 中国	29 ガボン	
15 インド	30 パキスタン	

出典：GFTN(グローバル フォレスト&トレード ネットワーク)

現在世界的に減少を続ける森林。とりわけインドネシアは世界で有数の森林大国であり、生物多様性に富む熱帯林を有していましたが、違法伐採や火災ににより急速に減少しています。

特にインドネシアのカリマンタン島では森林率が1950年代に95%もありましたが、現在40%まで減少しています。

この状況下、企業の持続可能な環境貢献活動として植林活動へご参加いただいております。

企業と環境の共生を目指す取り組みの受託事業を行っています。

植林はすべて同じではない

草原	二次林	産業植林地	環境植林地
0.6～1.3tC/ha /yr	2.9～5.7tC/ha/yr 低木林 2.6～3.2tC/ha/yr	AcaciaM 10tC/ha Eucalyputos 9～10tC/ha	6～9tC/ha/yr (mahogany)
草原のCO2吸収量 2.2tCO2/ha/年	二次林のCO2吸収量 目安平均10.6tCO2/ha/年	アカシアMの産業植林 目安平均36.7tCO2/ha/年	環境植林のCO2吸収量 目安平均27.5tCO2/ha/年

炭素トンからCO2トンへは二酸化炭素の分子量を炭素原子の原子量の比、44÷12＝3．67を係数として変換

植林する前の森林の状態により、植林手法やその効果が変わる

インドネシアの熱帯林の再生成果/866,475 tCO2 固定

草原の再生植林　　**荒廃二次林を再生**　　**火山爆発被災地再生植林**

合計1,175千本　↑621,715本　↑413,535本　↑88,000本

協力者数　延べ15,875人　15,875人　889人(法人含む）

プロジェクト①「生命の森づくり」に参加

インドネシア東カリマンタン州の森にメランティや果実の樹など1本と、チーク1本の計2本を1セットで植林し、市民の皆様や法人にオーナーになっていただくことで、"目に見える"環境貢献に参加いただくというプロジェクトです。植林されたチークは、GPSによって1本1本の緯度・経度を割り出します。

オーナーの方には、「CO2オフセット証明書」と「チーク植林木オーナー証書」を発行いたします。

チークは10年後に伐採します。オーナーはその収益金をご指定のNGO・NPOへ寄付するか、再植林に寄付するかを選択することができます。地元民の生計安定にも不可欠なプロジェクトです。

1セット2本5000円

10回100年後3071本・東京ドーム1個分以上の森になり、844tのCO2を固定します。

プロジェクト② 樹下植林による熱帯雨林再生植林

林業公社保護林ブキットバンキライ

東カリマンタン州国立ムラワルマン大学は、2万ヘクタールにおよぶ演習林を保有しています。しかし、1982～83年および1997～98年の森林火災によって大部分の熱帯雨林が劣化、消失してしまいました。そこで、2005年より、大学と共同で6,000ヘクタール（およそ1,800万坪）の土地を回復する植林プロジェクトがスタートしました。地場の樹種であるメランティ(フタバガキ科)を中心とする樹種を樹下植林し、かつてあった熱帯雨林の再生を目指します。

樹下植林　植林されたメランティ(5年目)

メランティーの樹下植林により再生過程の保護林(5年生) 右写真

樹下植林による森林再生
受託植林＝1本1,500円

プロジェクト③ 世界平和の森づくりに参加

「神々の島」ともいわれ、リゾート地としても知られるバリ島。しかし現在では森林率が**22%**にまで低下しました。なかでもバリ島の重要な水源の**1**つであるバトゥール湖では、度重なる火山の噴火によって湖畔の森林が消失し、水位が低下してしまいました。この事態を危惧してバリ州政府が立ち上げた『2010年緑のバリ』プロジェクトに**2007年5月**から参加し、バトゥール湖畔ペネロカン地区**2,075**ha（**628**万坪＝約200万本）の緑化を目指しています。

バリ州　水源涵養林再生プロジェクト

④オランウータンの森づくりに参加

インドネシアのオランウータンサバイバル財団(BOSF)の「サンボジャ　レスタリ」の敷地内の400ヘクタールにオランウータンの食用になる樹種の植林支援を行っています。敷地内は草原または灌木の2次林となっていて、有用な樹種が生育していません。

天然林から種子を採取して様々な地場の樹種の苗木づくりを行っています。

（※植林の実行は基本的に10月から翌年3月、雨期の期間に実行します。）

個人：2,500円／本　　企業様：ご相談

◆オランウータンリハビリセンター訪問と植林参加のための現地訪問ツアー企画随時

⑤共生の森づくりプロジェクトに参加

人と森が共に生きる「共生の森づくり」

私たち人間にとってより住み易く、持続的な地球環境を次世代に引き継ぐためにひきつぐために不可欠な行動が「共生の森づくり」です。

自然が、鳥や動物たちが種子を運んで新しい植物生命を育んでくれていることで「森」を中心とする自然が維持、再生され、私たち人間も生かされています。

しかし、この「共生の形」が経済的な価値を得るために、自然の再生能力を超えて利用され地球環境のバランスが壊れ、気候変動を招いています。

いまこそ「人間」は木を植えなければ、自然は私たちの世代では復元できない状況です。

次世代に引き継ぐための植林が「共生の森づくり」です。

地元の人たちの生計向上に役に立ち、地球環境の改善にも役立つ植林を進めるプロジェクトです。

その中心的活動が「生命の木」「モリンガ100億本普及プロジェクト」開始

自然を体感する・植林ボランティア体験ツアー

熱帯雨林の現状をこの目で確かめ、自らの手で木を植える。こうした体験を通じて、皆さんに森林の問題をより深く理解していただくため、毎年ボランティア植林体験ツアーを開催しております。ツアーには、体験植林をはじめ、オランウータンリハビリセンターの見学や、残された熱帯雨林の散策などさまざまなプログラムを盛り込んでいます。また、社員研修として環境スタディツアーなどのアレンジも致します。

2009年～バリ植林祭　ブキットバンキライのつり橋(カリマンタン)

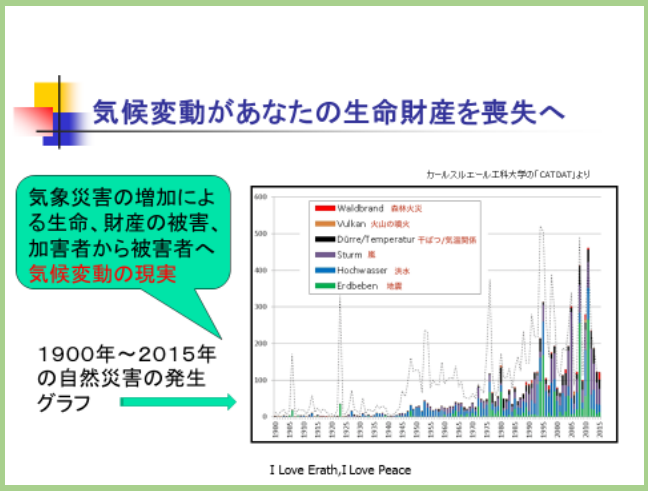
オランウータン　リハビリセンター(カリマンタン)　体験植林(カリマンタン)

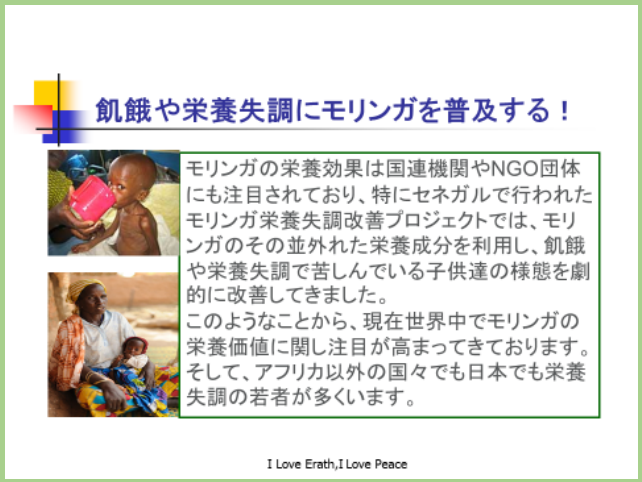
植林活動ご参加・ご支援方法について

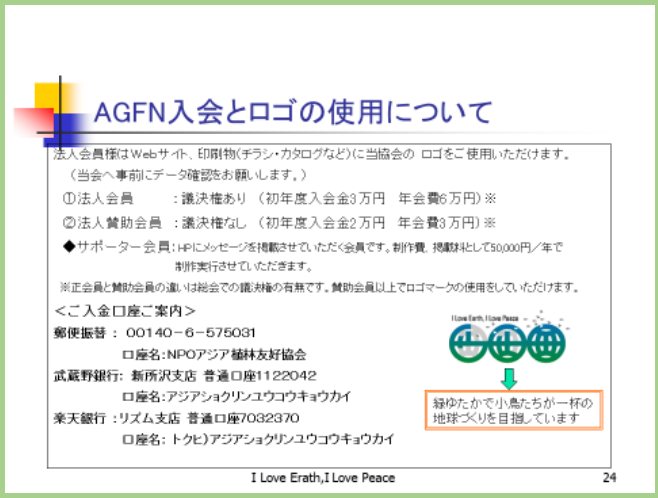
- **500円で世界平和の森づくりに参加**
  バリ島に1本植林ができ、毎年約10kgのCO2が吸収されます。
- **1500円で熱帯雨林再生プロジェクトに参加**
  カリマンタン島の現地大学との共同プロジェクトで、熱帯雨林再生のために1本の樹下植林ができます。
- **2500円オランウータンの森プロジェクトに参加**
  オランウータンの食用になる樹種を中心に植林
- **5000円で生命森づくりに参加**
  カリマンタン島にチークの立木権確保とメランティの植林寄付ができ、10年間で約1.41tのCO2が吸収されます。
- **智育の森づくりに1口5000円で参加**
  将来収益の期待できる『チーク』の植林権を確保して、バリックパパン市にある孤児院の持続的な運営支援のための「智育の森づくり」に参加
- **共生の森づくりに参加1000円/本**
  地元の人々の生計に役立つ樹木の植林活動を支援できます。
  モリンガの木2本の植林支援。

★経費節減できたDM1通1円を植林に！

- **地球に感謝の「リ・メール便」サービス利用**
  DMを発送するコストを下げその一部で植林活動を支援できます。毎日日世界と環境貢献が同時に実行できます。
- **社員植林体験研修ツアーで参加**
  植林体験ができる社員研修ツアーをアレンジ致します。
- **毎月1000円の継続支援会員になって活動を支援する**
- **個人・法人会員になって会をサポート**
  個人正会員・法人正会員とそれぞれ賛助会員あります。
- **中古本・DVDの収集**
  Amazonで転売し収入を植林活動に参加する
- **Paypalで様々な活動支援に参加**
  世界平和の森づくり・生命の森づくり・参加支援などがPaypalを通じて参加いただけます。(HP参照)







地球市民・企業として地球の森づくりに参加を

私どもNPOアジア植林友好協会は、2002 年、設立から 16 年目を迎えました。その間、わたしたちは日常の生活活動を「植林」という行動に直接結びつけていただけるように願い、活動を続けて参りました。

「未来の子供たちに緑ゆたかな地球を引き継ぎたい」

なかでも地球のすべての生命に大きな影響力のある「熱帯雨林の保護と再生」というコンセプトのもとに活動を行っており、多くの企業や個人の皆様から、多くの参加支援をしていただいております。しかし、今日、地球規模で抱える森林の減少の問題、気候変動の問題を考えるととても足りません。何よりも人類が地上で生き続けるために必要な森林を、今を生きるすべての地球市民が生活の一部として行動が必要不可欠です。**深刻な事実を知り、より多くの企業、個人の皆様が、ご参加される事を切に願っています。 お問合せ:04-2968-6343** info@agfn.org

モリンガ普及プロジェクト

この生命の木=モリンガ普及プロジェクトは、人類共通の大きな課題、「気候変動」と「飢餓貧困」対策のための植林です。

植林から原料生産、製品加工から消費までを対象として取り組むことで緩和対策として有効な形になります。

プロジェクトを行うには、苗木の生産、購入から植え付け、収穫まで、そして製品加工、販売、利用まで多くの皆さんの参加が必要です

この活動は皆様の「地球に感謝の気持ち」に支えられ、人種や世代や宗教の違いを超えて実行しています。

モリンガ普及したい会員募集中！

■モリンガの普及に貢献したい皆さんに会員募集の案内！

気候変動対策にもなるモリンガ、年間 160kgのCO2 を吸収削減に役立ちます。
育った葉っぱや実を食用に活用して、飢餓貧困対策になります。
偏った栄養バランスの人達のためにバランスの良い栄養補給で健康生活を！

①モリンガ普及会員 A　入会金 500 円

②モリンガ普及会員 B　入会金 1000 円＝植林 1 本+種 100 粒

育苗苗

植林 1 本

2 年後には成木

③モリンガ普及会員 C　入会金 2000 円＝植林 1 本+モリンガパウダー100g

④モリンガ普及会員 D　入会金 3000 円
＝植林 2 本+モリンガ粒 120 粒入り

⑤モリンガ普及会員 E　入会金+植林10本＝5000 円

お申込み：NPOアジア植林友好協会
TEL04-2968-6343　Fax　04－2968－6470
http://www.agfn.org　　Email info@agfn.org

※植林証明書を希望されます場合は
基本的にはメールデータでお届けします。印刷物として必要な場合は郵送させていただきます。